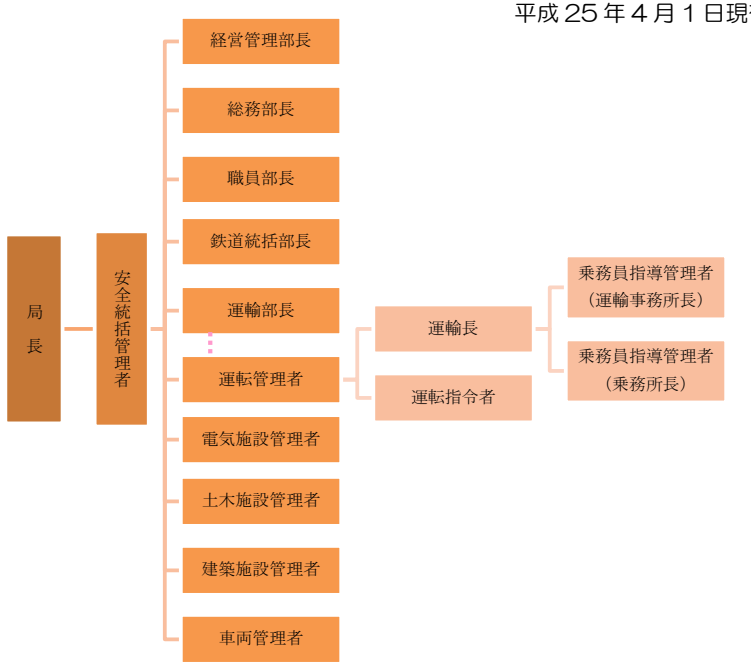
① 安全の確保に係る体制（安全管理体制）

経営トップの局長のリーダーシップのもと、安全管理体制を構築しています。

平成 25 年４月１日現在



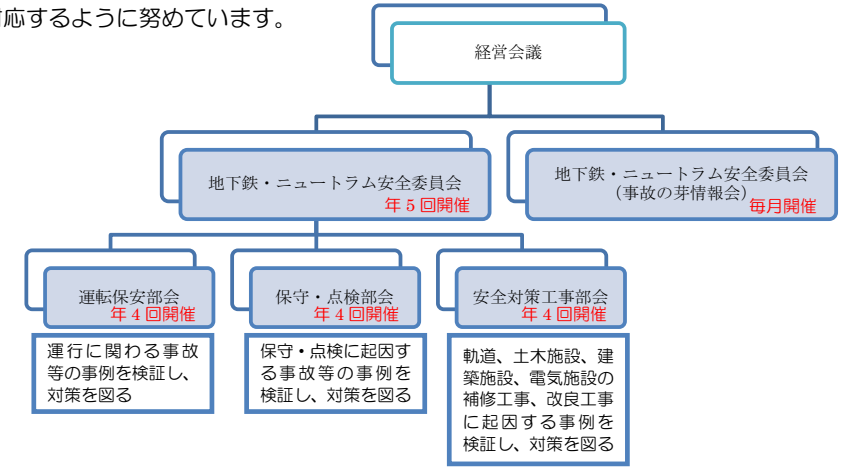
※ ┈┈ は、運輸部長が運転管理者の業務を補助していることを示す。

主な管理者とその責務

局長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者 各施設管理者 車両管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転、各施設及び車両に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、乗務員及び操縦員の資質の維持に関する事項を管理する。

② 安全委員会と事故の芽情報

地下鉄･ニュートラム安全委員会では、安全統括管理者のもと安全管理体制の確立を図り、地下鉄･ニュートラムの運行について一層の安全を推進することを目的とし、安全管理に係わるさまざまな検討を行ないます。また、平成 24 年７月より事故の芽情報会を設置し、毎月、現場から寄せられるヒヤリハット、事故の芽に対して、スピーディーに対応するように努めています。



職員の経営参加意識の醸成（事故の芽処理の２週間ルール）

現場から寄せられる「事故の芽情報」は、放置すれば事故になる事故の芽を、小さなうちに摘み取り事故の発生を防ぐ大切なものです。現場職員から寄せられた意見や気付き、ヒヤリハット体験は、現場事務所を通して、本局管理部門に集約し、対策（設備改善やルールの見直し）を講じます。情報提供者へは２週間以内に、その対応等を回答することになっています。

また、これらの情報と対策は、毎月開催する地下鉄・ニュートラム安全委員会（事故の芽情報会）で各部に報告し、情報を共有します。

交通局では、この一連の取扱いが職員の経営参加意識の醸成に結びつくものと考えています。

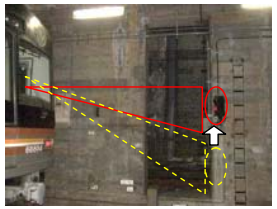
信号機の視認性（入換信号機）　気づきの発信者：運転士

（改善前）運転台の座席に深く座った状態では、入換信号機の現示が確認しづらく、少し覗き込んで入換信号機の現示を確認しなくてはならなりませんでした。

深く座った姿勢では信号機が視界に入らない

覗き込むと信号機が見える

（改善後）入換信号機を上方へ移設することにより、運転台の座席に深く座った状態で、入換信号機の現示が確認できるようになりました。

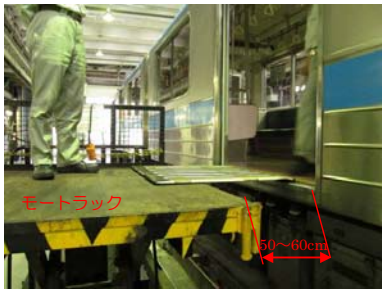


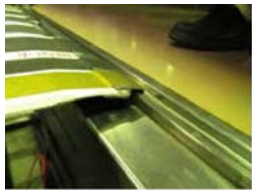
信号機を上方へ移設

深く座った姿勢で信号機が見える

車内への機器搬出入の際の転落防止改善
気づきの発信者：車両作業員

（改善前）車両の側面には案内レールがあり、モートラックをギリギリまで近づけても約５０～６０cm の隙間が生じ、作業中の転落の危険がありました。





（改善後）更新で不要になった、車椅子等のお客様の乗降用渡り板を車両出入り口の下レールにしっかりと固定することで、機器搬入の際の転落が防止できました。

ホーム下溝の改善について　気づきの発信者：運転士

（改善前）列車を留置する時、ハンドスコッチ※を取付けるためにホーム下に降り、かがみながら歩きます。現地は、狭くて暗く軌道横の溝が認識しにくく、足を取られ、躓く危険性がありました。

ホーム下
軌道横の溝

（改善後）乗務員の注意力に頼っていたが、溝ふたを設置したことによりつまずき等を予防でき職員の安全を確保できました。

溝ふたを設置

※ハンドスコッチ
留置中の列車や作業車が、ひとりでに動き出すことを防ぐために、車輪に設置する器具。

ハンドスコッチ撤去忘れ防止の改善について
気づきの発信者：保線作業員

（改善前）保守用作業車留置時のハンドスコッチの撤去を失念し、保守用作業車がハンドスコッチに乗り上げそうになりました。運転者及び助手のダブルチェック並びにチェックシートにて確認。運転席内所定の位置にハンドスコッチの格納を義務付などの対策を行っていました。

保守用作業車のハンドスコッチ設置状況

運転席内のハンドスコッチ格納状況

（改善後）運転席内にあるハンドスコッチ格納箱内にハンドスコッチを格納せずエンジンキーを ON させた場合、赤色回転灯が点灯する装置を設置。赤色回転警告灯により運転者、助手及び添乗者全員がハンドスコッチ未格納状態を一目で確認することができ、撤去忘れ対策が行われました。

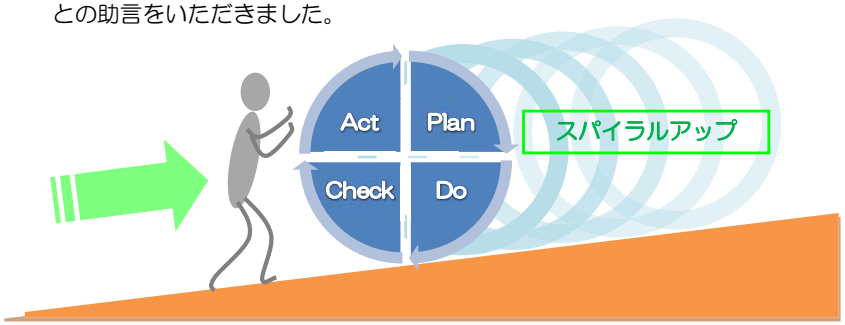
運転席内のハンドスコッチ格納箱に格納されたハンドスコッチと赤色回転警告灯

③　安全確保に関する各種活動

安全管理の方法

輸送の安全の確保に関する計画を策定し（Plan）、これを着実に実行し（Do）、その進捗状況の確認・検証を行い（Check）、必要な改善を図る（Act）ことを繰り返し行い、安全管理体制の継続的な改善を行うことで、各種の安全施策を進めています。

確認・検証（Check）には、内部監査によるものの他に国土交通省による運輸安全マネジメント評価があります。交通局では、平成24年8月に運輸安全マネジメント評価を受け、安全風土・文化の構築と定着を図り、安全性を段階的に向上させるためには、安全管理体制の継続的な改善及び不断の取組みが不可欠であるとの助言をいただきました。



内部監査

大阪市交通局では、毎年、安全管理体制に係る内部監査を実施しています。

内部監査は安全管理体制が適切に確立され、実施され、維持され、機能していることを確認し、これにより交通局の輸送の安全が適切に確保できるかを客観的に確認することを目的に実施しています。

平成24年度は輸送の安全確保に係わる規程類とその根拠法令の理解度及び遵守状況の確認等、安全管理体制の継続的改善のためのチェックを行い、適切にマネジメントが行われているかを確認しました。

内部監査　ヒアリング状況

総合訓練

平成５年のニュートラム事故を教訓とし、不測の事態に迅速に対応できる体制を確立し、各部合同で消防及び警察等の協力を得て、異常時におけるお客さまの安全を守ることを目的に訓練を実施します。

避難誘導編（10月27日）

（想定）御堂筋線梅田駅のホーム階段下の部屋より火災が発生、入駅中の列車が緊急停止し、車内及び駅構内のお客さまが発煙などの影響により負傷を負った。

（参加）交通局350名
大阪府警20名
大阪市消防局30名

心肺停止状態のお客さまに対する、心肺蘇生法及びＡＥＤ取扱い状況

消防隊による救助活動

避難誘導

施設・車両復旧編（11月8日）

（想定）地震発生により、ポイント部通過中の列車の案内輪が破損し、操向機能（自動車のハンドル機能と同じ）を喪失し、ポイント付近の地上施設物を損傷させて、走行不能になり停止した。

（参加）交通局93名

ゼロ災コール

損傷したポイント据え付け用品を交換状況

安全講演会

平成２４年４月と11月に、管理職を対象とした安全講演会を開催しました。他鉄道事業者から講演講師を招き、他社の安全の取組み等の紹介があり、安全管理の重要性について意識の向上を図りました。

平成 24 年 4 月 23 日
講　師　株式会社ＪＲ東日本パーソネルサービス　顧問　関口雅夫氏
テーマ　拓く安全管理改革への道　～安全の先にある安心を提供する民営化～

平成24年11月29日
講　師　九州旅客鉄道株式会社
　　常務取締役　鉄道事業本部副本部長　安全推進部長　古賀徹志氏
テーマ　ＪＲ九州の安全の取り組みについて

安全講演会の様子

安全講演会の様子

安全に関する取組み発表会

平成 24 年 11 月 29 日に地下鉄・ニュートラム安全運行強化週間に伴う「安全に関する取組み発表会」を開催しました。

各部の代表者による取組みの発表があり、他の所属の業務や取組みを知るなどの共有化を図り、最も優秀であった所属に対して、表彰を行いました。

最優秀賞の受賞した運輸部

発表の様子

④　風通しの良い職場づくりに向けて
職員と経営層とのコミュニケーション

局長以下、安全統括管理者や各施設管理者、各部長など直接職員とコミュニケーションを取ることで風通しの良い職場をつくり、安全意識の共有・向上に努めています。

局長の現場での
コミュニケーション（現場巡視にて）

合同自主監査での現場巡視

全員で綱領唱和

現場巡視後の意見交換会

安全統括管理者の現場での
コミュニケーション（現場巡視にて）

乗務所での巡視

駅での意見交換